

㈱アフラス認証センター 有機登録認定機関

今回の法人会員紹介は、㈱アフラス認証センター(以下アフラス)です。JR 新橋駅近くに所在し、とてもアットホームな雰囲気のある事務所です。社名は、91年に故藤本敏夫さんが始めた㈱自然王国(97年に農業食品監査システム、英語表記にするとAFAS アフラスと改称)という会社に端を発しているそうです。これから認証を受けてみようかなと考えていらっしゃる事業者の方向けに、自社紹介をしていただきました。

有機認定を行っている範囲

アフラス認証センターの認証は、現在、有機農産物・畜産物・加工食品・小分け業者・輸入業者、生産情報公表のJAS認証業務が中心ですが、有機加工酒類・有機コットンや有機水産・有機化粧品といったJAS外有機の認証も可能です。

有機以外で独自で認証を行っているもの

特別栽培農産物や加工食品の認証、生産団体・企業の自主基準に基づく栽培履歴・生産履歴認証、AFASシステム認証・GAP(適正農業規範)認証を行っております。AFASシステムとは、弊社がISO・HACCPの手法を取り入れて農業生産者向けに開発した環境・安全・品質をトータルに含む環境管理のシステム認証です。現在さらにGAPやフードマイレージ・生き物調査・社会正義などの要素を入れた認証システム・AFASCSRの開発に取り組んでいます。

業務を行ううえで大切にしている考え方

私たちは設立から「持続的で安全な食を広めたい」と活動を行ってきました。この姿勢が認められ、国内に留まらず中国など国外の認証も行うほど信頼を得ています。また、積極的に農業を支える現場の人たちと触れ合う機会を設けています。その為に、私たちは今年も10月19日に日比谷公園で行われる「土と平和の祭典」に、企画・運営から携わっております。こうしたイベントを通じて、単に認証業務をすることが目的ではなく、食の安全を支え、食の在り方を変えていくことを大切に考え、食文化を守る機関でありたいと願っているからです。

さまざまなフォロー体制

年1回の認定事業者研修や、検査員研修、月1回の新規認定事業者向け講習会を行っております。ご希望に合わせて出張講義も随時行っております。今年2月には農水省の担当者の方と一緒に資材セミナーを行い、多数の

資材メーカーの方々との意見交換の場を設けました。認定事業者からの資材やJASマークを始めとする表示のお問い合わせにも対応し、随時迅速かつ丁寧に回答致します。このように、年1回の監査以外にも事業者の方と密に連絡を取るようになっています。

職員、検査員の体制

アフラスは現在内勤が7名(うち検査員としての資格があるのは6名)、外部委託検査員35名、それ以外に外部判定員、提訴委員という体制で業務を行っています。社長のかねてからの希望であった、認証事務に携わるものは全て検査員としての資格を持つというのが、ようやく実現した形になりました。書類を検査員に送ったり、前述の問い合わせに答えたり、何を行うにも認証制度に熟知していなければ満足な業務はできないと思いますし、事業者からの信頼も得られないと考えるからです。また肥料業界出身の内部検査員がいるため、資材の確認についても自信があります。農業関連法についても熟知しており、この点では業界一であると自負しております。また、弊社の検査員採用基準ですが、JOIA研修を受講・修了していること及び検査員見習を経験し、先輩検査員の推薦を得られた方となっております。厳しい基準をクリアした検査員の方をお願いしておりますので、検査の質にも自信があります。

有機食品のニーズ

昨年有機農業推進法が施行され、有機JAS制度に対する見方も変わってきたと感じています。安全・安心に興味を持ち始めた消費者、有機食品のニーズを感じている流通業者から有機JAS制度が徐々に評価されています。またNOP(米国国家有機規格)との同等性に関しての手続きも始まり、有機JAS制度の信頼性担保がとても重要になってくると思います。

ですから今後も事業者を始め、多くの方の協力を得て、広く有機JAS制度の普及や有機運動、自給率の上昇等に尽力していきたいと思っております。

電話番号：03-5400-2272

<http://www.afasseq.com/>